

令和6年度 晴海西小学校 自己評価報告書

学校（園）名： 中央区立晴海西小学校 所在地：中央区晴海5丁目3番5号

校（園）長名： 齊藤 光司

児童（生徒）数 878名 学級数 27学級 教員数 37名 職員数 1名

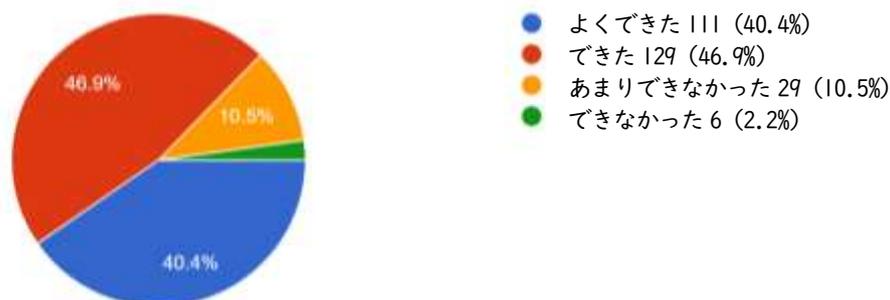
1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 児童・家庭・地域とともに進める学校教育の推進

【児童】

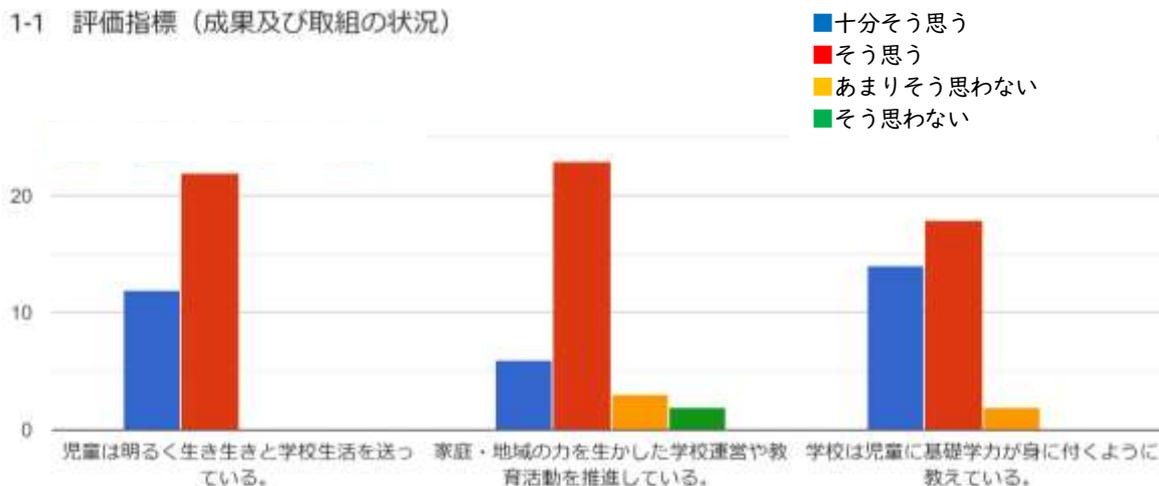
1 自分で課題を見つけ、学ぶことができますか。

275件の回答



【教職員】

1-1 評価指標（成果及び取組の状況）



達成状況の指標となる肯定的な児童の割合は87.3%となった。成果及び取組の状況として教職員の肯定的評価は以下の通りとなっている。

- ① 「児童は明るく生き生きと学校生活を送っている。」100%
- ② 「家庭・地域の力を生かした学校運営や教育活動を推進している。」85%
- ③ 「学校は児童に基礎学力が身につくように教えている。」は94%

年度当初に立てた評価指標は、それぞれ①90%以上、②60%以上、③80%以上となっていたので、どれも目標を大幅に超えている。

保護者の肯定的評価は下記の通りとなっている。

- ① 「家庭では、子どもの学びが深まるように意識して生活させている。」89.4%

② 「児童は信頼して気持ちを伝えられる人がある。」 94.3%

③ 「児童は地域の活動にすすんで参加している。」 51.4%

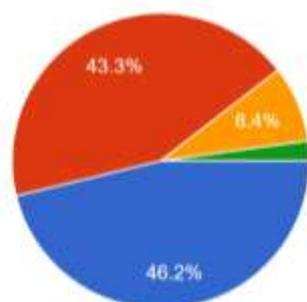
開校初年度にも関わらず、「家庭・地域の力を生かした学校運営や教育活動を推進している。」に肯定的な回答した教職員の割合が高かった背景として、教職員の研究を「自ら学び、学びを深める児童の育成」をテーマに生活科、社会科、総合的な学習の時間の教材開発に充てたことが考えられる。本校学区の歴史に詳しい講師を招き、新しい地域の特徴を知り地域人材の発掘を行ったことが成果として現われている。

保護者の評価で肯定的意見が約半数にとどまった「児童は地域の活動にすすんで参加している。」については、地域行事の周知不足も要因の一つとして考えられる。今年度は地域防災訓練やはるみらい、晴海ふ頭公園でのお祭り、児童館や図書館のイベントなどがあった。学校がそれらイベントの周知を積極的に行っており、地域の行事に参加する機運を醸成していく。

重点目標2 児童が自ら未来を切り拓く力を育む教育

【児童】

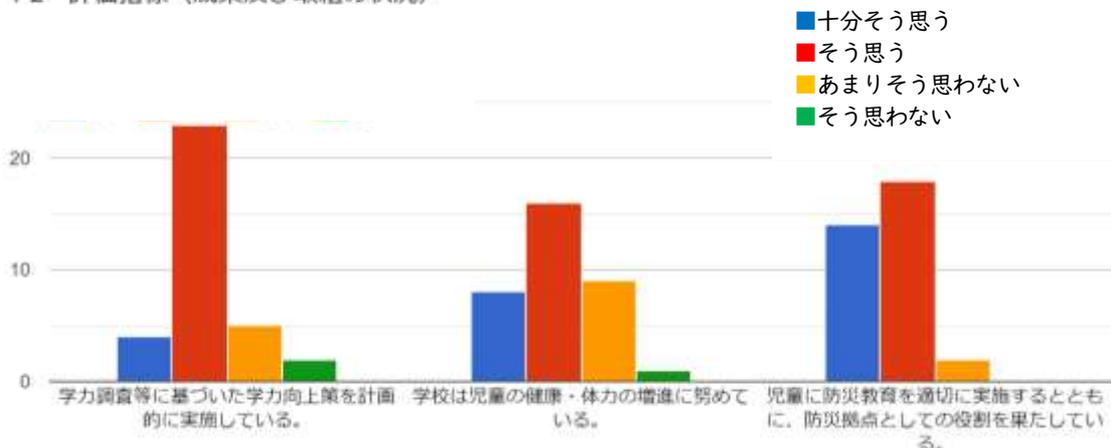
2 考えたことを、友達と話し合い、学んだことをいかすことができましたか。
275件の回答



- よくできた 127 (46.2%)
- できた 119 (43.3%)
- あまりできなかった 23 (8.4%)
- できなかった 6 (2.2%)

【教職員】

1-2 評価指標（成果及び取組の状況）



「考えたことを、友達と話し合い、学んだことをいかすことができましたか」の質問に肯定的な児童の割合は89.5%となった。取り組んだ側として、教職員の肯定的評価は以下の通りとなっている。

- ① 「学力調査等に基づいた学力向上策を計画的に実施している。」 79%
- ② 「学校は児童の健康・体力の増進に努めている。」 70%
- ③ 「児童に防災教育を適切に実施するとともに、防災拠点としての役割を果たしている。」 94%

年度当初に立てた評価指標は、それぞれ①学力調査等に基づいた学力向上策の計画的実施（年に2回以上の見直し）、②80%以上、③60%以上となっていたため、達成できたのは、③のみとなった。

保護者の肯定的評価は下記の通りとなっている。

- ① 「児童は、学んだことを生活に生かそうとしている。」 88.9%
- ② 「家庭では、子供の健康な体づくりのために、運動をする機会をつくっている。」 81.6%
- ③ 「保護者は、児童が学校で友達と過ごしたり、学び合ったりする意義を理解している。」 97.7%

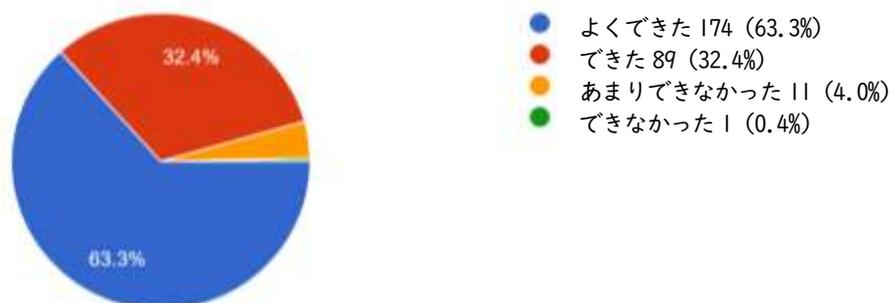
学力調査等に基づいた学力向上策については、約2割で計画的実施は確認できなかった。教職員からは、今年度は実態が見えない状況であるとともに、様々な活動に向けての準備を行うことが難しかったという声があがった。次年度は、実施策を明確にすることで確実に実行できるようにする。担当者を中心に計画的に学力、体力調査による結果の分析を校内で共有した上で、学力や体力の向上、増進につながる活動を推進していく。

重点目標3 一人一人の多様なニーズに対応した教育

【児童】

3 友達のよさを見つけることができましたか。

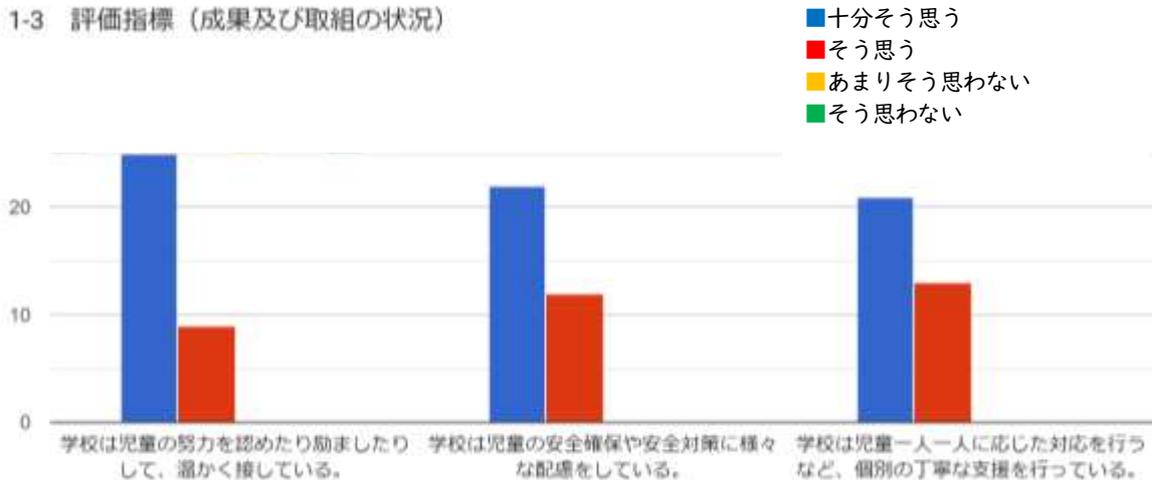
275件の回答



重点目標3 一人一人の多様なニーズに対応した教育

【教職員】

1-3 評価指標（成果及び取組の状況）



「友達のよさを見つけることができましたか」の質問に肯定的な児童の割合は95.7%となった。取り組んだ側として、教職員の肯定的評価はいずれも100%となっている。

① 「学校は児童の努力を認めたり励ましたりして、温かく接している」

② 「学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている。」

③ 「学校は児童一人一人に応じた対応を行うなど、個別の丁寧な支援を行っている。」

年度当初に立てた評価指標は、それぞれ①80%以上、②70%以上、③70%以上となっていたため、達成できている。

保護者の肯定的評価は下記の通りとなっている。

① 「児童は、友達のよさに気づいている。」94.7%

② 「家庭では児童のよさを認め、児童に伝えている」95.8%

③ 「学校は児童一人一人に応じた対応を行うなど、個別の丁寧な支援を行っている。」78.4%

③について、教職員の肯定的評価は100%であるが、保護者の中では78.4%と8割を下回る結果となった。この結果で目を引くのが「わからない」と回答した保護者が7.8%と、重点項目の中で最も高い割合を示している。来年度は、個別に支援の必要な児童への対応をどのように行っているかを周知し、保護者への理解や協力を得ていく必要がある。

日本語を母語としない児童への日本語初期指導や、はるかぜ教室（特別支援教室）やことばときこえの教室などの通級指導学級、不登校支援や、基礎的・基本的な学習を定着させる取組など、個に応じた支援が来年度以降も重要と考える。関係諸機関や学習支援員、地域の人材を活用しながら効果的に進めていく。

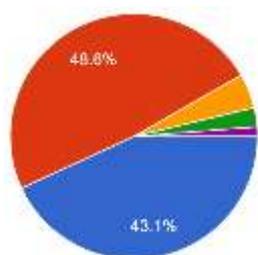
2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

【保護者】

○肯定的評価の割合が高かった項目

【1位】肯定的評価 91.7%

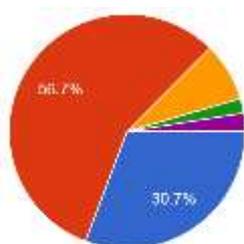
4-5) 児童は明るく生き生きと学校生活を送っている。



よくあてはまる	171 (43.1%)
あてはまる	193 (48.6%)
あまりあてはまらない	18 (4.5%)
あてはまらない	10 (2.5%)
わからない・無回答	5 (1.3%)

【2位】肯定的評価 87.4%

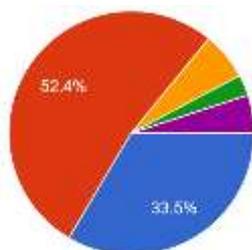
4-14) 学校は行事や学校公開などを通して児童の学習の様子や生活がわかるようにしている。



よくあてはまる	122 (30.7%)
あてはまる	225 (56.7%)
あまりあてはまらない	32 (8.1%)
あてはまらない	8 (2.0%)
わからない・無回答	10 (2.5%)

【3位】肯定的評価 85.9%

4-11) 学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している。



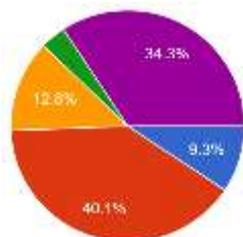
よくあてはまる	133 (33.5%)
あてはまる	208 (52.4%)
あまりあてはまらない	25 (6.3%)
あてはまらない	11 (2.8%)
わからない・無回答	20 (5.0%)

主に行事や学校公開を通して児童の様子を知る中で、保護者が「児童は明るく生き生きと学校生活を送っている。」と評価している。何か連絡や相談がある際には、学校と連絡を取り合って適切に解決していることがわかる。

●肯定的評価の割合が低かった項目

【1位】肯定的評価 49.4%

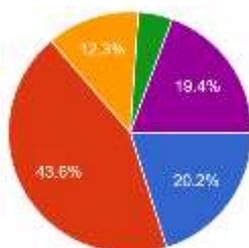
4-8) 学校はボランティア活動や清掃活動などの様々な奉仕活動を行っている。



よくあてはまる	37 (9.3%)
あてはまる	159 (40.1%)
あまりあてはまらない	51 (12.8%)
あてはまらない	14 (3.5%)
わからない・無回答	136 (34.3%)

【2位】肯定的評価 63.8%

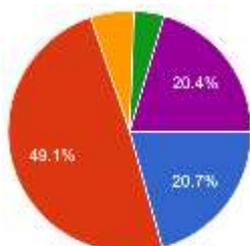
4-16) 学校はICT機器を十分活用している。



よくあてはまる	80 (20.2%)
あてはまる	173 (43.6%)
あまりあてはまらない	49 (12.3%)
あてはまらない	18 (4.5%)
わからない・無回答	77 (19.6%)

【3位】肯定的評価 69.8%

4-17) 学校は特色を生かした教育をしている。



よくあてはまる	82 (20.7%)
あてはまる	195 (49.1%)
あまりあてはまらない	23 (5.8%)
あてはまらない	16 (4.0%)
わからない・無回答	81 (20.4%)

「学校はボランティア活動や清掃活動などの様々な奉仕活動を行っている。」の肯定的評価が5割を下回った。「わからない・無回答」を選択する割合も高く34.3%となっている。ボランティア活動や清掃活動などの奉仕活動がいつ、どのように行われているかを保護者へ伝えていく必要がある。

ICT機器の活用も6割の肯定的意見にとどまっている。よりよく活用していくための取組みが必要となっている。

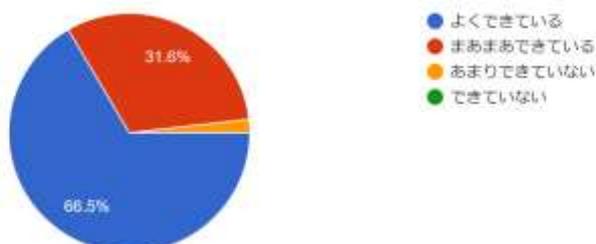
特色を生かした教育についても、来年度以降、晴海西小学校ならではの教育活動を実施し、どのように行われているかを保護者に伝えていく。総じて肯定的評価が低い取組は、「わからない・無回答」の割合も高いため、情報発信を重点的に行っていく必要がある。

【児童】

○肯定的評価の割合が高かった項目

【1位】肯定的評価 98.1%

11 みんなで使うものを大切にしていますか
275件の回答



【2位】肯定的評価 94.6%

4 授業の内容はよくわかりますか
275件の回答



【3位】肯定的評価 91.7%

13 学校の行事は楽しいですか（運動会、校外学習、集会、学年ごとの行事など）
275件の回答

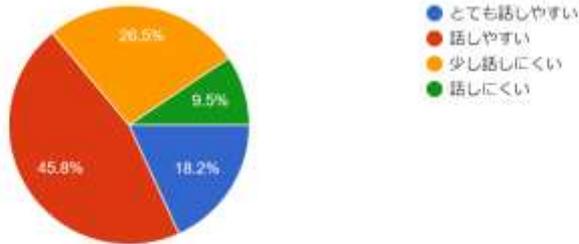


新しい校舎を、児童が大切にしていこうとする意識が高いことが分かった。授業内容は9割以上が「よくわかる」、「わかる」を選択している。学校行事を楽しむなど、保護者の肯定的回答の高い第1位「児童は明るく生き生きと学校生活を送っている。」を裏付ける結果となっている。

●肯定的評価の割合が低かった項目

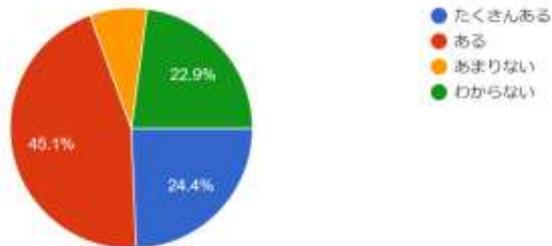
【1位】肯定的評価 64.0%

7 先生は、なやみなどについて話しやすいですか
275件の回答



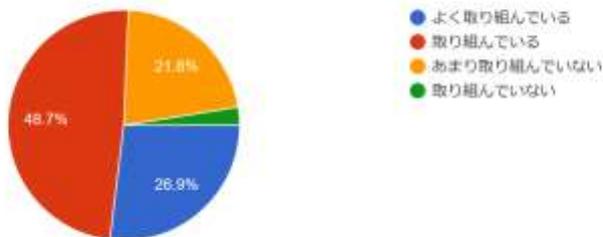
【2位】肯定的評価 69.5%

15 自分にはよいところがありますか。
275件の回答



【3位】肯定的評価 75.6%

16 わたしたちの学校をよりよくしようとしていますか。
275件の回答



教師に悩みなどについて話にくい児童が35%を超えている。児童の記述には話しにくい理由にふれているものは見られなかった。教師と児童の心の距離、時間的制約など原因について考える必要がある。

自分にはよいところがあるか、分からない児童が2割となっている。自分のよさや強みに気づかせる取組みを進めていく。

3 今年度の成果と来年度へ向けた取組策

今年度は手探りでの1年間であった。目指すレベルにはまだまだではあるが、想定以上の評価を児童・保護者からもいただけたと考えている。学校の教育活動への理解や協力、明るく生き生きと学校生活を送っている児童が多くいることは、大きな成果と考える。重点項目も概ね肯定的評価が高かった。しかし、今年度は開校1年目ということもあり、十分な配慮や取組が行き届かないところも当然あった。本校の特色をより深め、地域に根ざした活動を行っていく必要がある。

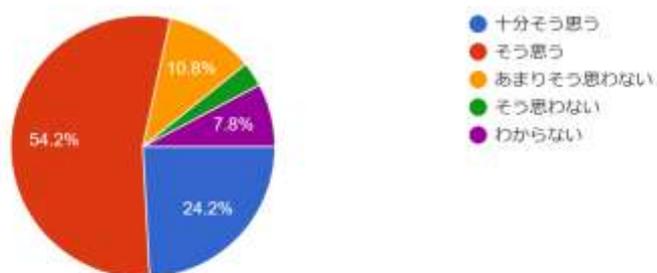
具体的には、児童の自己有用感、自己肯定感を高めるための取組をさらに強化していきたい。児童の考えを引き出し、児童の考えに沿った取組を増やしていく。そして、自分たちが考えたり、提案したりした活動が実現できた、という達成感を味わわせることなどを通して、自己有用感を高めていく。また、学校行事や学習面でも、教員が児童をほめる機会を増やし、自信をもって様々なことにチャレンジできるような児童を育成していく。困難な事案でも、繰り返しチャレンジしたり、友だちとも協力しながら解決したりできるようなねばり強さや知恵を身に付け、自己肯定感を高めていきたい。

学校評価の保護者回収率が46.5%と低く大変残念であった。何度も連絡を行い、提出をお願いしたが、次年度は改善したい。学校便りやHPで、日々の教育活動の状況などを周知したことで、学校の様子などは伝えることができた。学校の教育活動への参画意識を醸成できるよう、保護者と学校との連携の重要性や意義を理解していただけるような工夫も行う必要がある。

来年度もしっかりと児童一人一人への丁寧な支援を継続して行っていきたい。以下のグラフは保護者の回答である。12.8%の保護者、約50人が否定的な回答である。本校は、様々な地域から児童たちが晴海に集い、本校へ通っている。帰国子女や外国籍の児童も通ってきており、将来、世界に羽ばたき活躍する力を身に付けるためには最高の環境が本校にはあると考える。すべての児童が多様性を受け入れ、共生社会の実現を推進できる大人へと成長して欲しいと考える。性別や国籍、障害の有無など、人々が生まれもった多様な特徴や価値観を認め、尊重し合える力を身に付けさせていく。そして、そのような力が社会を豊かにし、互いがそれぞれの個性を活かし、共に協力し合える社会を目指して欲しいと願っている。

3-3) 学校は、児童一人一人に応じた対応を行うなど、個別の丁寧な支援を行っている。

397件の回答



* 3月末に各学校・幼稚園のホームページで公表していきます。